

5月例会は韓国映画「マラソン」

総会で2006年度に活動を提案



例会のお知らせ

名称 / 第24回例会「マラソン」

日時 / 2006年5月18日(木) AM10:30～、PM2:00～、PM4:20～、PM6:40～ (は試行)

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩15分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

タイトル / マラソン

監督 / チョン・ユンチョル

出演 / チョ・スンウ、キム・ミスク、イ・ギヨン、ペク・ソンヒョン、アン・ネサン

データ / 2005年、韓国、カラー、1時間57分、16mm、ドラマ

ストーリー / 20歳の青年・チョウオンは自閉症の障害を抱えており、5歳児程度の知能しかない。走ることに興味を覚え、母の大きな愛情に支えられながらついには過酷なフルマラソンに挑戦する姿を感動的に綴った実話がベースのヒューマンストーリー。

感情がコントロールできずいつも周囲に騒動を巻き起こしてしまうチョウオンに人一倍の愛情を注ぐ母キョンスク。“息子より一日だけ長く生きることが願い”と語るキョンスクは、チョウオンにマラソンの才能があると気づき、それを伸ばしてあげようと元有名ランナーのチョンウクにコーチを依頼する

。最初はまともに指導する気のなかったチョンウクだったが、チョウオンの純真さに次第に心動かされていく。

主演は「ラブストーリー」でその清浄な演技が絶賛されたのチョ・スンウ。

「男たちの大和」上映会に共催

6月17日に加古川市民会館で開催する「男たちの大和」上映会に、地元映画団体として共催することになりました。

戦艦大和に乗務した特別年少兵の青春を描いた2005年の日本映画の大作ですので、どうぞご覧ください。

名称 / 「男たちの大和」上映会

日時 / 2006年6月17日(土) AM10:30～、PM1:50～

場所 / 加古川市民会館中ホール(JR 加古川駅から南へ徒歩15分、加古川市役所前)

観覧料 / 当日1,000円(割引料金などチラシ参照)

最近の映画から / 寝ずの番

こどもたちの春休み期間中は、映画館のスクリーンはアニメ映画に占拠されていましたが、ようやく落ち着きを取り戻してきました。先日、久しぶりにワーナーマイカル加古川に行き、マキノ雅彦(津川雅彦)監督の「寝ずの番」を見てきました。

中島らも原作で、6代目笑福亭松鶴が亡くなったときの通夜の晩のことなどを題材にした、スケベな言葉が連発する作品ということで、期待は半分くらいの気持ちで見はじめたのです。落語家の師匠が長門裕之、弟子が中井貴一でその妻が木村佳乃ということですので、ちょっと違和感を感じながらも、ヒューマンドラマとして、脚本の質の高さと、古き良きスケベで上品な笑いを、感じ取ることができて、見ておいて良かったと思った作品でした。「有頂天ホテル」に代表されるような三谷幸喜作品の笑いと、似て非なる意表を突いた直線的な笑いの場面も多く、コメディ映画として記憶に残るものです。

明るく卑猥な言葉が連発されるので、シネマクラブの例会やテレビ放送は無いと思いますので、ちょっと変わった映画を観たい人は、ご覧になることをお勧めします。作品としての質の高さや、俳優の力

量もよくわかるなかなか日本映画らしい良い作品です。(ハインリッヒ)

全国映連総会から

4月1日と2日に映画鑑賞団体全国連絡会議(全国映連)の総会と全国映連賞贈呈式・パーティーが東京であり、参加してきました。贈呈式では、田中裕子さん、吉岡秀隆さん、井上たかゆきさん、井筒和幸監督などが参加してくれて大いに盛り上がりました。着物姿の田中さんは本当にキレイで、吉岡・井上両氏は気さくでご機嫌、井筒節も健在でした。

総会では全国行事、各地の状況など活発に意見交換がなされました。前後には、松井久子監督、鎌仲ひとみ監督、訃報を聞いて吃驚しましたが黒木和雄監督に会ったり映画を見たり、刺激的で充実した東京行きでした。

なお、私は明石映画サークル所属でとして全国映連代表委員を務めていましたが、私自身の実際の活動状況に合わせてもらうために、運営委員会での了解のもと、今期から加古川シネマクラブ所属として全国映連の携わらせていただきたいと思えます。そのために、会議のための旅費の一部など、財政的な負担も掛ける場合もあると思えますが、映画鑑賞運動発展のために頑張りますので、よろしく願います。(岡本健一郎)

【補注】岡本健一郎(代表委員)さんは、県内の映画鑑賞団体の役員などをしており、現在、映画鑑賞団体全国連絡会議の代表委員のひとりとなっています。2006年度から現在の活動の主体である加古川シネマクラブを代表して全国映連の世話役を務めることになりました。運営委員会では、全国映連関連の経費が、会員からの会費収入をできるだけ充てないように注意し、関係団体からの情報を活かした事業などによる収入を確保することに努め、全国映連関連の経費に充てていこうということにしています。

定例総会議案の要点

このニュース作成直後の4月28日に開催する加古川シネマクラブ2006年定例総会の議案説明の要点を報告します。

まず、2005年度の事業報告と決算報告についてですが、6回の例会、3周年記念上映会「父と暮せば」、その他3件の上映会の協力など順調な活動を行えています。会員数と例会参加状況は横ばいです。収支については、ほぼ均衡がとれています。しかし、昨年度会費収入に対し例会開催費、印刷費、通信費な

どの関連支出が14万円程度多く、赤字体質に陥る傾向が出ています。3周年記念上映会での約8万円の黒字やチケット販売等協力手数料で補われています。

役員は、引き続き現状のままとしています。

次に、2006年度の事業計画と予算についてですが、事業は前年度とほぼ同規模で考えています。一般を対象にした上映会については、全国映連を通して文化庁から日本映画上映支援の補助(事業の赤字分の補助)を受けることができそうなので、実施する予定です。候補作品は「二人日和」です。例会での午前の部の試行や全国映連行事の参加助成などにより、全体に15万円程度予算規模が大きくなっています。25名程度の会員増を見込んでいます。

総会に欠席された会員には、例会会場入口で総会資料をお渡ししますので、お申し付けください。

前回例会の報告

3月16日の例会では、「ニワトリはハダシだ」を鑑賞しました。参加会員133人。

知的障害の少年を描いた作品ということでは、5月例会の「マラソン」も共通しますが、テーマ、脚本、描き方などを比べてみるのもおもしろいかもしれません。

例会開始時間の試行経過

例会の開始時間については、PM2:00~、PM4:20~、PM6:40~として行ってきましたが、新しい会員の入会を促進するために、3月例会から「AM10:30~」を試行しています。3月例会では、参加者数にほとんど変化は無く、今までのPM2:00~の参加者が、AM10:30~とPM2:00~に別れただけの結果となっています。

もう少し様子を見て、会員の増加に結びつかなければ、元の3回に戻すことになるかもしれません。

午前から夜間まで行うとなると会場費の負担が大きくなり、上映回数が3回と4回では、フィルムの使用料が大きく変わる場合が多く、経済的に厳しいためですので、お含みおきください。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数198人(3月17日現在)